

第3回那覇空港調査PI評価委員会
議事概要

1 日時 平成18年7月8日(土) 13:30~15:04

2 場所 パシフィックホテル沖縄 カネオホールム

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

琉球大学名誉教授

弁護士

フリージャーナリスト

琉球大学工学部教授

上間 清

大城 浩

崎山 律子

堤 純一郎

(2) 那覇空港調査連絡調整会議からの参加

内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾空港指導官

国土交通省大阪航空局飛行場部次長

沖縄県企画部参事

成瀬 英治

梅野 修一

傍士 清志

5 主な発言内容(順不同)

(1) PIステップ2の情報提供・意見収集資料について

(委員) アンケート大問4の問い方がわかりにくい。回答する立場にたって、わかりやすく工夫すること。

(委員) 情報を網羅した概要版となっているが、ボリュームを整理し、少しメリハリをつけてもいいのでは。

(事務局) 伝えるべき情報は伝えるという方針で編纂した。内容についてはこのような形で進めていきたい。

(委員) 報告書表紙のデザインが那覇空港のイメージから離れすぎている。前回のデザインを継続して使用してもよいのでは。

(委員) 継続性を保ってもインパクトがあるのであれば、継続性があつたほうがいいのではないか。また、主な内容が分かるように、表紙にサブタイトルを入れたほうが良い。

(委員) あまり継続性を気にせず、その時々で、関心を寄せる人に、手に取ってもらえるようなデザインでよいと思う。

(事務局) ステップ1の表紙を踏襲するか、新たなインパクトのあるものを作るか、事務局内でも議論がある。最終的には連絡調整会議の中で判断させていただきたい。

(委員) 報告書の節・章を系統立てた形で整理する必要がある。また、章タイトルは始まりと続きが分かるよう工夫が必要。

(事務局) デザイン案も含め、少し検討させていただきたい。

(委員) 自衛隊との共用は空港能力に大きく関係してくる。共用を前提とするならば、そのことを明確に書き記すべき。

(事務局) 現段階としては、共同利用を前提とせざるを得ない。ステップ1でも自衛隊との共同利用に関する意見が出ており、報告書では、主なご意見に対する対応として、「本調査では、現在の自衛隊との共同利用を前提として、空港能力の見極めを行いました」と記載している。

(委員) 自衛隊は、国際関係や政治が絡む問題であり、需要予測の中に入れるというのは非常に難しいと感じる。需要予測の前提条件として、自衛隊の利用は現状維持である、ということをも明記するよう検討してほしい。

(2) P I ステップ2の実施スケジュールについて

(委員) 学校や企業から説明会の依頼が来た場合はどう対応するのか。

(事務局) 一般の方々とは反応も違ってくると思われるので、特定の団体を対象とした説明会(懇談会)として対応していきたい。

(委員) 市民協議会は地域ごとにもつのか。また、どのような形で進めようとしているのか。

(事務局) 市民協議会をより実効的に実施しようと考えた結果、関心が重なり合う団体、グループ等を対象とした懇談会として進めることとした。

(委員) P I ステップ1におけるアンケート回収率は5%と少し低い。できるだけ回収率をあげる努力をしてもらいたい。

(委員) アンケート回収率は非常に高いと感じる。対象を絞らずに一般的に広報し、行動してもらうというのは非常に難しい。関心、興味のある方に報告書が行き渡るよう、工夫してやっていると思う。

(事務局) 提供した情報を受け止めた後に、行動を起こす(アンケートを出す)方、起こさない方がいるが、P Iにはどちらも大事であるので、回収率の低さで悲観的になる必要もないと思う。ただ、昨年の結果もでていたので、それを超えるよう努力していきたい。

(委員) パソコンや携帯電話を活用して、情報提供や意見を出せるような工夫をしてはどうか。

(事務局) 携帯サイトはないが、パソコン上で、またEメールで意見を出せるシステムは組み込んでいる。

(委員) ニュースや記事で取り上げてもらうよう、記者を対象とした説明会、勉強会を提案したい。

(委員長まとめ)

- ・ 報告書の内容については良く出来ている。細かい表現等工夫していただきたい。
- ・ 表紙のデザインについては、その人の芸術感、人生、哲学いろいろあり結論づけが難しいが、回答する人の目線にたって対応していただきたい。
- ・ 自衛隊、海上保安庁の利用については現状を前提とするということを、情報提供する立場からどう表現すればいいのか、ひとつ工夫していただきたい。
- ・ 回答率だけが意味のあることではないが、できるだけ向上が図れるよう努力していただきたい。